

# ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第26号 平成23年8月11日

打線も繋がり勝利につなぐ！！

投手陣三塁踏ませず完封！

|   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | R |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| G | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | × | 6 |



林三塁奪取



哲也先制タイムリー

8/11(土) Victoria土曜リーグ@東京湾岸ストリークス戦を金井公園野球場で戦った。若干風の強い中でのゲームは林のマウンドから始まった。プレイボール直後相手先頭は初球を打ち一飛で一死、その後、内野ゴロで二死目を取ったが、三番打者には、レフト前に運ばれた。この打球が、外野芝でイレギュラーを呼び、打者走者は、二塁進塁を試みた。が、その直後7-6-4の連携で見事セカンドで刺した。その裏の攻撃、初球がいきなりの死球でたかあきが出塁、その後、二盗を決め、更にWPの間に三塁へ進塁、ここで二番哲也がきっちり三遊間を抜き、たかあきを迎え入れ、先制点を挙げた。三番の投ゴロの間にセカンドへ哲也が進塁、そして三盗を決め、一死三塁とまたもや得点シーン、次打者は四球を選択し、且つ直後に盗塁で場面は、一死二・三塁、次打者の内野ゴロの間にきっちり三塁ランナーを迎え入れ二点目。更に6番深沢の場面で相手投手のWPの間に三盗目、更に深沢が2ベースを放ち、一死二・三塁と依然得点シーンは続く、後続の三ゴロの間にホームインを試みたが、惜しくもホームタッチアウト、だが、次打者が死球で出塁し二死満塁、だが、後続は三飛に倒れ、大量得点のシーンが続いたが、結果3点とまりで、初回の攻撃を終えた。二回以降の投手陣は、二塁までランナーは進めるが、打たせて捕るピッチングで結果、三塁を踏ませない内容でゲームを縮めた。打線においては、二回に久々の裕太が左中間に柵越えを放ち追加点、更に三回には、安打が1本だが、制球の苦しんできた投手から、三つの死球を選択し1点を追加、更に四回には、2つの失策と安打一つ四球で1点を追加し、今日のゲームを勝利した。

今日のゲームを振り返ってみると、投手の差が勝利を呼んだような気がした。四死球の多さは、被安打の多さと同じ、投手は如何に出塁を許さないか。野手に関しては、投手が打ち取った打球を如何に、アウトに繋げるかが守備において、重要な事だろう。これが、今日はきっちり出来たと思う。初回の安打を二塁で刺せたが、抜かれた野手が懸命にボールを追い、そして、適切な位置に陣取ったカットマンへの返球、最後に、走者へのタッチプレー、どれ一つとっても、無駄が無かった。

打線においては、安打を繋げて得点するのが理想だが、これは現実の中々難しい。そんな中、今日は内野ゴロでも得点できた事は、少しづつではあるが、打者がやるべき事が理解出来てきた結果だと思う。

そんなゲームの中で、2点気になる点・・・

1. 残塁数の多さは、非常に拙い。野球は最後に多く点を挙げていたチームが勝利となるが、満塁での残塁が三度、三塁に走者を置いての残塁が一つと、これは、やはり得点に繋げておきたいところである。
2. サインの見落とし、特に三塁にランナーが居た場合は、見落としは、絶対にいけない。ましてや、打者自身が勝手にボールだからと手を出さなかったら、三塁ランナーは見殺しになると同時にベンチの雰囲気は、一気に下降する。スクイズエンドランを指示された場合は、絶対にバットに当てる位の気構えでこれから、打席に入ろう。

今日で後半戦のスタートを切ったが、白星発進は上々の発信、この勢いで連戦連勝を目指しましょう！